

神奈川県における奈良・平安時代の考古学的研究

ーその歩みと今後の視点ー

奈良・平安時代研究プロジェクトチーム

『かながわの考古学』が各時代ごとにプロジェクトチームを組んで共同研究の成果を発表するようになったのは、1994年の第4集『かながわの考古学の諸問題』からである。奈良・平安時代研究プロジェクトチームでは、まず「神奈川県内の墨書土器集成」(1994年)・「神奈川県内の墨書土器について」(1995年)・「神奈川県内の刻書土器集成」(1996年)と文字資料に関する共同研究を3年間行った。続いて「神奈川県におけるカマド構造の基礎的研究1～3」(1997～1999年)を進め、3年間にわたって堅穴住居の竈構造に関して基礎資料を提示しその成果をとりまとめた。

今回、テーマを決定するにあたってチームの6名がそれぞれ構想をもち寄り議論した結果、時あたかも20世紀の終末、21世紀を迎えるにあたって、神奈川の古代史研究について考古学の視点からまとめることになった。われわれの力量からみてやや背伸びした企画といえなくはないが、日々新たな知見のある考古学的資料を通じてかながわの古代史研究の進捗をみようとする試みである。

研究方法としては、古代史研究を分野別に分類して論じるとともに研究史年表を作成することとした。分野別は国府・郡衙をはじめとする官衙関係、寺院関係、集落関係、遺物関係の四つに大別した。さらに集落関係については、集落構造を中心とした視点と立地を中心とした視点とに、遺物関係についても土器類に絞り込んで在地関係と搬入品関係とに区分した。生産遺跡や祭祀関係の遺跡、墳墓、土器・陶磁器以外の遺物等が含まれていない。これは視点の拡散を防ぐことと、神奈川県の古代史研究の中ではそれらが何回も議論されるほど資料数が豊富でないことによるものである。

発表する順序として今年度は研究史年表を作成し、論文著者名と論文名を提示した。そして2年次以降に、文献目録と各分野における研究史の総括を述べる手順とした。年代が同じ場合、どちらが先に研究されたかを論じられることを想定して、月まで入れた。月が不明な場合は□で示している。項目は前述した官衙関係、寺院関係、集落関係、遺物関係に区分している。集落関係は集落構造と立地、遺物関係も在地の土器と搬入品とに細分しているところから、官衙関係はA、寺院関係はBとした。集落関係では集落構造に関するものはC、立地に関するものはD、同様に遺物関係も在地の土器をE、搬入品をFで示した。展覧会・シンポジウム・遺跡名等の記事に対しては、何に関連しているかを示すため、A～Fで示している。遺跡名はその遺跡の発掘調査が開始された年月を入れている。また、同じ記事でも必要があると判断した場合は、あえて分野ごとに重複して掲載している。

年表の作成にあたっては、日頃から神奈川県の古代史関係の文献を精力的に集成されている荒井秀規氏(藤沢市教育委員会)のデータベースを最大限に活用させていただいた。また、田尾誠敏(東海大学)・中三川昇(横須賀市教育委員会)の両氏に助言をいただいた。さらにプロジェクトチーム全員が参加している「相模の古代を考える会」の方々からも資料提供等の支援を得た。なお、官衙関係(A)は中田、寺院関係(B)は富永、集落関係の集落構造(C)は加藤、立地(D)は大上、遺物関係の在地の土器(E)は河野、搬入品(F)は依田が分担して集成しており、次回以降の論述に関しても同様の分担とする予定である。

官衙（国府・郡衙・駅家等）A	寺 院 B	年代	月
		1889	
		(明22)	
		1897	9
		(明30)	12
	永井健之輔「相模國國分僧寺」	1903	
		(明36)	
大槻如雷『驛路通』上		1911	9
	中山每吉「相模國分寺研究」	(明44)	
		1913	8
		(大2)	
喜田貞吉『神奈川県教育』		1917	8
喜田貞吉『武相郷土史論』		(大6)	12
沼田頼輔「相模國分寺考附国府駅路考」	沼田頼輔「相模國分寺考附国府駅路考」	1918	3
	住田正一「相模国曹源寺の古瓦に就て」	(大7)	7
矢後駒吉ほか「相模國分寺研究1」	矢後駒吉ほか「相模國分寺研究1」	1921	8
矢後駒吉ほか「相模國分寺研究2」	矢後駒吉ほか「相模國分寺研究2」	(大10)	9
	三輪善之助「影向寺寺域発見瓦」	1922	10
	三輪善之助「影向寺の瓦」	(大11)	
吉田東伍「奈良平安時代の武蔵相模」		1923	8
石野瑛「武相の古代文化」		(大12)	10
	谷川磐雄「影向寺発見の古瓦に就いて」1～3		
中山每吉ほか『相模國分寺志』	中山每吉ほか『相模國分寺志』	1924	11
		(大13)	12
		1926	3
石野瑛『武相考古』		(昭1)	4
			6
片岡永左衛門「相模師長国府考」			7
	谷川磐雄「影向寺について」		
	沼田頼輔「相模國分寺に就いての一考察」	1927	5
	赤星直忠「宗源寺の古瓦」	(昭2)	5
沼田頼輔「相模国府遺址に就いての一考察」			6
			11
			12
坂本太郎『上代駅制の研究』		1928	5
		(昭3)	10
		1929	2
		(昭4)	3
			3
			9
		1930	5
		(昭5)	9
中山每吉「相模国駅路考」	足立康「相模國分寺堂塔年代論」	1931	4
	田辺泰「相模國分寺建築論」	(昭6)	5
			7
		1932	4
		(昭7)	6
			11
			12
沼田頼輔「相模国府の位置」	赤星直忠「勝福寺の古瓦を尋ねて」	1933	12
		(昭8)	
石野瑛「相模国府址の推定と其の調査」		1934	1
		(昭9)	9
			10
		1935	1
		(昭10)	2
			7
			7
			7
中山每吉「神奈川県に於ける関所の遺蹟と其の史実」	赤星直忠「相模宗源寺址」		
石野瑛「相模（大住・余綾）国府址研究」		1936	1
		(昭11)	2
			3
石野瑛「中郡国府村の遺跡を訪う」			6
			8
			9
			12
赤星直忠「相模國分寺」	赤星直忠「相模國分寺」	1938	8
		(昭13)	10
			10
			11
磯野喜悦「相模國分僧寺瓦及び字瓦」	磯野喜悦「相模國分僧寺瓦及び字瓦」		
石野瑛「武相に於ける古刹と出土古瓦に就いて」		1939	1
		(昭14)	4
			7
石野瑛「武蔵相模に於ける古刹と出土古瓦」	石野瑛「武蔵相模に於ける古刹と出土古瓦」		11
			12
		1940	3
		(昭15)	5
			7
	加藤誠夫「千代観音勝福寺古瓦発見概報」		
		1941	2

神奈川県における奈良・平安時代の考古学的研究

特記事項	集落址（構造C・立地D）土器（在地E・搬入F）	土器（在地E・搬入F）
		鳥居邦太郎『日本考古提要』E
		三宅米吉「上古の焼物の名称」E
		三宅米吉「上古の焼物の名称」E
		高橋健自『考古学』E
		小松真一「金澤を出だす竪穴遺構」E
		鳥居龍蔵『先史及原始時代の上伊那』E
		森本六爾「武蔵国荏原郡馬込村の一横穴」E
		後藤守一『日本考古学』E
		森本六爾「西日本の弥生式土器の本体について」E
		八幡一郎「南佐久郡の考古学的調査」E
		八幡一郎「武蔵川口村発見の一壺」E
		太山柏「弥生式及び其系統－はしがき－」E
		太山柏「我国石器時代研究の現況」E
		浜田耕作「日本の古代土器」E
		樋口清之「静岡県小笠郡曾我村弥生式土器出土遺跡研究」E
		浜田耕作「日本の古代土器」E
公郷瓦窯址B		杉原荘介「下総東葛飾郡国分村須和田弥生式遺跡研究摘要」(上) E
		杉原荘介「下総東葛飾郡国分村須和田弥生式遺跡研究摘要」(下) E
		山内清男「日本遠古之文化」五 E
		山内清男「日本遠古之文化」六 E
		八幡一郎「下総国須和田の弥生式土器」E
		森本六爾「下総国須和田の土器について」E
		小林行雄「小型丸底土器小考」E
		山内清男「新著」E
		杉原荘介「会報」E
		杉原荘介「上総宮ノ台遺跡調査概報」E
		奥田直栄「中野区川崎発見の原史時代竪穴」(予報) E
		杉原荘介「須和田遺跡に於ける考古学的調査の意義について」E
		奥田直栄「空堀らしき溝を持つ竪穴住居遺跡」E
		奥田直栄「東京市西部に於ける古墳時代末期集落の規模」(一) E
		奥田直栄「東京市西部に於ける古墳時代末期集落の規模」(二) E
		奥田直栄「東京市西部に於ける古墳時代末期集落の規模」(三) E
		赤星直忠「三浦半島出土の須恵器並土器集成」F
		小林行雄ほか「大和に於ける土師器住居址の新例」E
		杉原荘介「下総亀高遺跡調査概報」E
		杉原荘介「南関東を中心とする土師器祝部土器の諸問題」E
		和島誠一「原史時代部会の須和田遺跡見学」E
		山内清男「日本遠古之文化」補註付・新版 E
		S. J.「『人類学・先史学の用語に関する座談会』に出席して」E
		杉原荘介ほか「武蔵和泉遺跡調査概報」E
		杉原荘介「武蔵弥生町出土の弥生式土器に就いて」E
		杉原荘介「弥生式文化研究上の二三の問題」E

官衙（国府・郡衙・駅家等）A	寺 院 B	年代	月
佐藤善次郎「上代の神奈川」		1941	3
		(昭16)	4
藤田伊人「相武古駅路考」			7
			11
中山毎吉「武相に於ける古道の探究2」		1942	1
長谷川晴康「師長国造址考」		(昭17)	3
赤星直忠「千代塚を尋ねて」			4
加藤誠夫「千代の台から飯泉へ」			7
川口清「第二次相模国府の遺跡」			7
永井参治「相模旧国府と五霊社」			7
永井参治「相模旧国府と正庁附御牧国倉」			9
川口清「大住国府址及び大住余綾両軍団址とその沿道調査」			9
佐藤善次郎「相模国国府祭解説」			10
永井参治「国府祭の古事と三宮の旧儀」		1943	3
山田一男「千代の古瓦と忘れぬ事ども」	山田一男「千代の古瓦と忘れぬ事ども」	(昭18)	12
		1946	12
		(昭21)	
		1950	6
	岡部長章「相模尼寺跡で表面採集した文字瓦について」	(昭25)	
大場磐雄「相模国府の位置について」		1951	3
		(昭26)	4
	大場磐雄「相模国分寺の性格」		6
		1952	12
児島卿造「相模国分寺」	児島卿造「相模国分寺」	(昭27)	
	鶴田榮太郎「七堂伽藍」		
		1953	4
	石野瑛「上府中村古刹址（千代観音）の考察」	(昭28)	9
			12
	内藤政通「川崎市菅寺尾台瓦塚廃寺址調査報告」	1954	3
	赤星直忠「横須賀市平作瓦窯址」	(昭29)	4
			7
			12
石野瑛「相模の国府と国分寺」	石野瑛「相模の国府と国分寺」		
石野瑛「相模国府址」	石野瑛「足柄下郡千代廃寺」		
		1955	2
		(昭30)	3
			7
	赤星直忠「横須賀市子安寺址」		12
		1956	6
		(昭31)	7
石野瑛「高座の古往今来ほか」			10
石野瑛「神奈川県大観4」	石野瑛「神奈川県大観4」		10
	加藤誠夫「飯泉勝福寺の研究」		
	石野瑛「古酒匂文化と千代観音弓削寺」		
	石野瑛「茅ヶ崎市下寺尾廃寺址」	1957	3
		(昭32)	12
	赤星直忠「宗元寺時代」		
	鶴田榮太郎「長編七堂伽藍」1・2		
	石野瑛「神奈川県大観3」	1958	4
		(昭33)	6
			6
			6
	坂詰秀一「瓦塔についての一考察」		8
立木望隆ほか「小田原市立病院出土の遺物」			9
			10
山田弘道「地名からみた国府」		1959	1
		(昭34)	2
立木望隆「小田原市民病院土師遺跡調査記」			7
			10
		1960	2
大場磐雄「国府集落」		(昭35)	3
浅香幸雄「国府の位置と相模国府の三遷」			4
		1961	3
石野瑛「国府津は旧小総駅ほか」	石野瑛「千代遺跡調査の継続」	(昭36)	4
石野瑛「神奈川県大観5」	石野瑛「神奈川県大観5」		4
	加藤誠夫「飯泉勝福寺について」		4
山田弘道「続地名からみた国府」			6
			7
山田弘道「続々地名からみた国府」			12
	赤星直忠「小田原市千代廃寺跡」	1962	5
	大川清「瓦窯における技術導入の一例－相模国分寺瓦窯－」	(昭37)	6
丸茂武重「国府郡家の建物」			9
		1963	1
		(昭38)	4
	石野瑛「小田原市旧上府中千代古刹址」		10
樋口清之「さかさ川の謎」	樋口清之「さかさ川の謎」		12
		1964	3
		(昭39)	4

神奈川県における奈良・平安時代の考古学的研究

特記事項	集落址（構造C・立地D）	土器（在地E・搬入F）
		杉原荘介「日本古代文化に於ける播布性に就いて」E
		藤森栄一「『天手挾』の発展経過に就いて」E
		杉原荘介「考古学的方法に於ける型式に就いて」E
		杉原荘介「上総宮ノ台遺跡調査概報」E
		杉原荘介「原史学序論」(初版)E
		杉原荘介「原史学序論」(再版)E
		小出義治ほか「山梨県日下部中学校々庭聚落遺跡概報」EF
菅寺尾台瓦塚廃堂B		
		萩原弘道「銚子市松岸遺跡原史時代遺跡に就いて」E
		萩原弘道「杉並区松ノ木中学校々庭の土師式堅穴遺構」E
		萩原弘道「杉並区堀之内済美台土師式住居址調査報告」E
		萩原弘道「土師式文化前期に對する一考察」E
		中山淳子「中野富士見台遺跡の小さな結果」E
		小出義治ほか「土師式遺物」『平出』E
		玉口時雄「落合遺跡出土の土師器に就いて」EF
		杉原荘介ほか「土師器」E
		小出義治ほか「伊東市史」E
		萩原弘道「銚子市松岸遺跡の土師器」E
		後藤守一「須恵器と土師器」E
瓦尾根瓦窯B		釣田正哉「平城宮跡出土・土師器並びに須恵器（上）」F
		萩原弘道「末期弥生式土器と古式土師器の關係」E
		高橋護「土師器研究に関する疑問」E
		釣田正哉「平城宮跡出土・土師器並びに須恵器（下）」F
千代廃寺B	三友国五郎「古代村落の研究」C	中山淳子「土師器小考」E
		若月直「山梨市下神内川出土の土器について」F
		小出義治「土師雑考」E
		高本康生「土師器研究略史（一）」E
		植崎彰一「後期古墳時代の諸段階」F
		高本康生「土師器研究略史（二）」E
		岩崎卓也「土師器研究上の諸問題(Ⅰ)」E
		植崎彰一「土器の発達－須恵器と土師器－」F
	宮原武夫「不動倉の成立について」C	
		岩崎卓也「古式土師器考」E
		岩崎卓也「土師器研究上の諸問題(Ⅱ)」E
		岩崎卓也「土師器の編年」E
		岩崎卓也「東日本における土師器の研究」E

官衙（国府・郡衙・駅家等）A	寺 院 B	年代	月
		1964	9
		(昭39)	9
		1965	1
赤星直忠「神奈川県小田原市下曽我低地遺跡」		(昭40)	3
内田武雄「相模・千代台の寺院跡とその周辺」	内田武雄「相模・千代台の寺院跡とその周辺」		10
			11
			12
		1966	2
		(昭41)	11
			12
日野一郎「平塚市下ノ郷廃寺跡」	日野一郎「平塚市下ノ郷廃寺跡」	1967	3
樋口清之ほか「神奈川県小田原市下曽我遺跡」		(昭42)	3
			4
太岡素「史跡相模国分寺跡の発掘」	太岡素「史跡相模国分寺跡の発掘」		5
岡田茂弘「相模国分寺を掘る」	岡田茂弘「相模国分寺を掘る」		7
	坂詰秀一「神奈川県岡上廃堂址の調査」	1968	1
		(昭43)	3
			10
	内藤政通ほか『官寺尾台瓦塚廃堂跡第三次発掘調査概報』		
		1969	7
藤岡謙二郎「甲斐と相模及び武蔵国府」		(昭44)	12
	大川清「瓦尾根瓦窯」		
		1970	2
		(昭45)	3
	坂詰秀一「川崎市岡上廃堂跡」		4
			5
			6
	赤星直忠「上足柄郡松田町瓦窯址調査日誌」		10
			12
		1971	1
鳥養直樹「律令国家成立期における国造小論」	岡本勇「横須賀市博物館建設地内の古瓦発見地点の調査」	(昭46)	3
坂本太郎「国府と駅家」			5
			6
			7
			9
			9
			11
			12
	小出義治「子安地区の伝仏堂址発掘調査報告」		
		1972	3
		(昭47)	3
			9
	赤星直忠「松田町からさわ第三号瓦窯調査概報」		10
丸茂武重「相模国府」		1973	6
		(昭48)	7
			8
中村兵吉「相模の国府と国分寺の変遷」	中村兵吉「相模の国府と国分寺の変遷」		9
			9
	富田千春「千代台の古瓦」		
小出義治「海老名町本郷（1次・2次）」		1974	3
木下良「相模国府の所在について」		(昭49)	3
千田稔「国津と国府津」			5
			9
権守桂城「相模の国府と総社」			
		1975	3
		(昭50)	3
			3
			3
			6
内田武雄「相模国初期の国府と国分寺の所在地はどこか」	内田武雄「相模国初期の国府と国分寺の所在地はどこか」		7
	富田千春「千代台の廃寺跡」		7
			8
			9
	大三輪龍彦『影向寺遺跡発掘調査概報』		
		1976	2
木下良「災害による国府の移転」		(昭51)	3
			3
			4
			5
	軽部一「横須賀市秋谷出土の古瓦」		6
			9
			11
			11
			12
永井参治「誤った国府址論を繕い正しい国府設置の条件を論ず」	三輪修三「影向寺小誌」		
		1977	2
		(昭52)	2
秋山元秀「相模国」			3
			5
木下良「国府と国分寺」			7
木下良「古代東海道の（相模川）渡河点」			7

神奈川県における奈良・平安時代の考古学的研究

特記事項	集落址（構造C・立地D）	土器（在地E・搬入F）
		岩崎卓也「土師器研究上の諸問題(Ⅲ)」E 田中琢「須恵器製作技術の再検討」EF 倉田芳郎「南関東における住居址出土の土師器」E
	直木孝次郎「古代国家と村落」CD	
相模国分寺B		棚国男ほか「八王子市大目町甲の原平安時代竪穴住居址調査報告」E 玉口時雄ほか「土師器」E
中田遺跡CD	和島誠一ほか「集落と共同体」CD	
		植崎彰一「古代・中世窯業の技術の発展と展開」F 岩崎卓也「真間式土器小考」E
		田中琢「畿内と東国」F 山村宏「遠江の須恵器生産」F 岡田淳子ほか「第3章 土師器の編年に関する試論」E 阿部義平「東国の土師器と須恵器」EF
からさわ瓦窯B		
		小出義治「鶴川遺跡K・P地点発掘調査報告」E 高橋正勝「弥生式土器における壺・台付甕の成形・調整工程についての試論」E 阿部義平ほか「水びき成形技法における「ヘラ切り」と「糸切り」」E 玉口時雄「土師器」E
本郷遺跡CD		伊藤博幸「轆轤技術に関する二・三の問題」EF 伊藤博幸「ロクロ成形技法と底部糸切離し手法の考察」EF 神沢勇一「土師式土器」F 高島忠平「平城京東三坊東側溝出土の施釉陶器」F 阿部義平「ロクロ技術の復原」EF 杉原荘介「古墳文化―土師時代―」E 坂詰秀一「武蔵新久窯跡」F 杉原荘介「前期の土師式土器」E
		神澤勇一ほか「神奈川県下の須恵器」F 服部敏史ほか「総括―土器について」『船田』E 杉原荘介「中期の土師式土器」E
上浜田遺跡CD		
尾尻八幡山遺跡CD		植崎彰一「陶磁大系第5巻 三彩・緑釉・灰釉」F 西野 元「国分式土器について」E 杉原荘介「後期の土師式土器」E
	榊原松司ほか「港北区森戸原遺跡調査概要」C	
		田中琢「鉛釉陶の生産と官営工房」F 佐々木達夫「古代村落の変遷過程」D 杉原荘介「晩期Ⅰの土師式土器、晩期Ⅱの土師式土器」E
草山遺跡CD	河野喜映ほか『高尾遺跡』C	河野喜映ほか「高尾遺跡」E 植崎彰一「高尾遺跡出土の灰釉陶器および緑釉陶器について」F 山崎一雄「厚木市高尾遺跡出土陶片の化学分析」F 服部敏史「下寺田・栗石遺跡」F
		高橋一夫「国分期土器の細分・編年試論」EF
影向寺B		寺島孝一「平安京出土の緑釉陶器」F 小笠原好彦ほか「第Ⅴ章2 平城宮Ⅰ～Ⅶの大別」F 末木健「中部地方の平安時代土師式土器編年の諸問題」F 河野喜映「高尾遺跡出土の土器編年試論」E 近藤義郎「原始史料論」E 植崎彰一「日本陶磁全集6 白瓷」F 植崎彰一「老洞古窯跡発掘調査概報」F
	中山吉秀「離れ国分考」C	
		星野達雄「いわゆる国分式土器について」E 大川清「千葉県市原市永田・不入須恵窯跡」F
向原遺跡C	松村恵司ほか「山田水呑遺跡」CD	

官衙（国府・郡衙・駅家等）A	寺 院 B	年代	月
		1997	9
志田諄一「古代国家と東国」		(昭52)	10
前川明久「東国の国造」			10
			11
	町田章ほか「国史跡相模国分寺跡」	1978	3
		(昭53)	3
			3
			4
			5
			6
			7
			7
			8
	岡本勇「七堂伽藍を掘る」		10
			11
			11
			12
		1979	3
		(昭54)	3
			3
			3
			3
			3
			3
			5
	神奈川県史編集室『神奈川県史 考古資料編』		6
			8
			8
			9
			10
			11
井上清「相模の国府と官道」		1980	1
平塚市遺跡調査会『四の宮下ノ郷』		(昭55)	3
鳥養直樹「律令国家形成期における在地首長の動き」			3
			3
			3
			4
大川清ほか「横浜市富士塚地区遺跡群長者原遺跡の調査」			7
平塚市博物館『掘り起こされた平塚』			7
前場幸治『古瓦を追って』	前場幸治『古瓦を追って』		10
			11
		1981	1
目崎徳衛「相模の国司」		(昭56)	3
			3
			3
			3
			3
			3
			3
			3
			5
			5
			6
			7
			9
			10
			11
			12
			12
		1982	1
		(昭57)	2
大川清ほか「長者原遺跡の調査」			3
小島弘義「神奈川県四之宮下郷・上郷遺跡」			3
			3
			4
			5
	伊藤秀吉ほか『影向寺文化財総合調査報告書』		6
			7
			7
中村二郎「雑談 国府祭」			11
			11
			11
		1983	1
		(昭58)	1
			1
			1
			1
			1

神奈川県における奈良・平安時代の考古学的研究

特記事項	集落址（構造C・立地D）	土器（在地E・搬入F）
		橘崎彰一『日本陶磁全集 5 三彩・緑釉』F
	黒崎直「歴史考古学における集落跡と都城研究」C	
	村松恵司「古代籍帳と古代集落についての覚書」C	坂詰秀一『武蔵・草草山窯』F
	小島弘義ほか「平塚市発掘調査の回顧と展望」C	大川清ほか「多摩丘陵窯跡調査報告」F
		田中琢「土師器と古墳時代」E
シンボ 1		大坪宣雄「歴史時代土師器環の一製作技法」E
敷根不動原遺跡CD		神奈川県考古学会「神奈川県内における古墳時代後期から平安時代土器編年試案」E
	服部敬史「関東地方における古墳時代後期の集落構成」C	
相原二本松遺跡CD		
下寺尾廃寺B		
中原上宿遺跡A	小島弘義「相模川下流域の沖積低地における遺跡の展開」D	
四之宮下郷遺跡CD		
		田中琢「型式学の問題」E
		大塚初重「土師器・須恵器の編年とその時代」E
		星野達雄「律令制と商品生産の展開」E
		福田健司「南武蔵における奈良時代の土器編年とその史的背景」EF
		小出義治ほか「歴史時代土器の研究 1」EF
宮ヶ瀬遺跡群CD	平塚市教育委員会『平塚市博物館資料 2』D	梅沢太夫ほか「埼玉における古代窯業の発達(1)」F
	國平健三ほか『上浜田遺跡』C	向坂綱二「静岡県における須恵器編年の現状と課題」F
		川江秀孝「静岡県下の須恵器について」F
		柴田稔「静岡県下の灰釉陶器について」F
		國平健三「I～VI期の土器群について」『上浜田遺跡』E
		静岡県考古学会「須恵器・古代陶質土器」の編年」F
		西弘海「奈良時代の食器類の器名とその用途」EF
長者原遺跡A		服部敬史ほか「南多摩窯址群の須恵器とその編年」F
	寺田兼方『古代の藤沢』C	小川貴司「回転糸切り技法の展開」EF
	高橋一夫「計画村落について」CD	
	原島礼二「東国の古代の大集落について」C	
	鬼頭清明「律令国家と農民」CD	坂野和信「日本古代施釉陶器の再検討(1)」F
四之宮下郷遺跡A・C		
六ノ城遺跡A		
	平塚市遺跡調査会『四の宮下ノ郷』C	梅沢太夫ほか「埼玉における古代窯業の発達(2)」F
	中田英「神奈川県における古代集落研究の現状」C	浅野晴樹「埼玉県内出土の平安末期の施釉陶器」F
		瀬川裕市郎「藤井原の大鉢」F
		小笠原好彦「近畿地方の七・八世紀の土師器とその流通」F
	吉田晶『日本古代村落史研究序説』C	
上ノ町遺跡D		服部敬史「八王子市南部地区の遺跡」EF
		杉山博久「秦野盆地周辺の火山堆積物と遺跡」E
シンボ 2		
		池上悟「南武蔵に於ける奈良・平安時代集落出土須恵器の様相」F
		東洋大学未来考古学研究会ほか『シノノケ山盤状杯』F
		坂本美夫「甲斐型の土器について」F
		瀬川裕市郎「静岡県東部地域における奈良時代の土器様相」F
		梅沢太夫ほか「埼玉における古代窯業の発達(3)」F
		橘崎彰一「老洞古窯跡群発掘調査報告書」F
		服部敬史「南多摩窯址群-御殿山地区G62号窯跡発掘調査報告書」F
		明石新「中原上宿遺跡出土土器の変遷」E
		國平健三「奈良時代土器の様相」E
	國平健三「相模国の奈良・平安時代の集落構造上」C	國平健三「相模国の奈良・平安時代集落構造(上)」E
	中田英「古代東国集落における掘立柱建物の一考察」C	服部敬史ほか「南多摩窯址群における須恵器編年再考」EF
台山遺跡D		
		田辺昭三「須恵器大成」F
		斎藤孝正「尾北窯における灰釉陶器の変遷」F
		愛知県陶磁資料館「猿投窯」F
シンボ 3		
		酒井清治「房総における須恵器生産の予察(1)」F
		佐々木和博「下総古代土器編年試論(1)」F
	小笠原好彦「古代寺院に先行する掘立柱建物集落」C	坂詰秀一「武蔵・天沼窯跡」F
	石井則孝『古代の集落』C	志村博「土器の分類」『東平』F
大源太遺跡D		
		梅沢太夫ほか「埼玉における古代窯業の発達(4)」F
		金子真土「北武蔵の須恵器」F
		斎藤孝正「緑釉陶器・灰釉陶器について」F
		服部敬史「南武蔵における古代末期の土器様相」F
		西弘海「土器様式の成立とその背景」E
	國平健三「相模国の奈良・平安時代集落構造(中)」C	國平健三「相模国の奈良・平安時代集落構造(中)」E
シンボ 4		立正大学「関東地方における9世紀代の須恵器と瓦」F
		上田薫「神奈川県における盤状の杯」EF
		斎藤孝正「猿投窯における灰釉陶の展開」F
		井上喜久男「白釉緑彩陶について」F
		田口昭二「美濃窯の灰釉陶器と緑釉陶器」F
シンボ 5		神奈川県考古学会「奈良・平安時代の諸問題」F
		國平健三「相模地域」E
		河野喜映「奈良・平安時代の鶴見川流域」E
		坂本美夫ほか「甲斐地域」F
		志村博ほか「東駿河地域」F
		高橋一夫ほか「北武蔵の窯址」F

[illegible]

神奈川県における奈良・平安時代の考古学的研究

特記事項	集落址（構造C・立地D）	土器（在地E・搬入F）
		服部敬史「南武蔵の窯址」F 福田健司「奈良時代の多摩川流域」F 福田健司ほか「平安時代の多摩川流域」F 石岡憲雄ほか「埼玉における古代窯業の発達（5）」F 市川正史「出土土器について」『向原遺跡』E 岡本範之「古墳時代後期から平安時代にかけての土器」F 後藤建一「8世紀代湖西古窯跡出土の須恵器編年モデル」F 植崎彰一ほか「猿投窯編年の再検討について」F 植崎彰一ほか「愛知県古窯跡群分布調査報告」Ⅲ F 長谷川厚「横須賀市小矢部窯址出土土器の再検討」E 長谷川厚「相模型の土師器杯について」E 植野浩三「須恵器蓋坏の制作技術」F 斎藤孝正「正家1号窯発掘調査報告書」F 羽鳥靖子「静岡県東部地域における古墳時代後期の埴形土器について」 服部敬史「クロロ土師器出現の背景」E 服部敬史「関東地方の窯址出土須恵器編年と年代」F 國平健三ほか「シンボジウム収録」E 長谷川厚ほか「クロロ使用の酸化焰焼成の土器について」E 吉瀬正恒「灰釉陶器の編年について」F 鈴木徳雄「古代北武蔵における土師器製作手法の画期」EF 佐久間豊「斜格子状暗文坏を有する土師器坏について」F 服部敬史「奈良・平安時代の土器生産について」F 史館同人・市立市川考古館「房総における奈良・平安時代の土器」F 佐久間豊ほか「旧上総国における奈良・平安時代土器編年試案」F 宮内勝巳「東京湾沿岸における奈良・平安時代土器の様相」F 福田健司「クロロ土師器の問題点について」E 石戸啓夫「大原太遺跡出土の畿内系土師器について」F 金子真土「埼玉における古代窯業の発達（6）」F 小島弘義「出土土器について」『四之宮下郷』E 斎藤孝正「第4節 灰釉・緑釉陶器」『四之宮下郷』F 瀬川裕市郎「静岡県（東部）」F 前川要「猿投窯における灰釉陶器生産最末期の様相」F 山口辰一「武蔵国府関連遺跡における土器編年試論」E 渡辺博人「美濃須衛古窯跡群資料調査報告」F 坂詰秀一「武蔵八坂前窯跡」F 鶴間正昭「赤色塗彩土師器杯の消滅について」EF 斎藤孝正「愛知県日進町株山地区埋蔵文化財発掘調査報告書」F
シンボ6	小笠原好彦「東日本における掘立柱建物址の展開」C 能登健ほか「赤城山南麓における遺跡群研究」D 高橋一夫「集落分析の一視点」C	
シンボ7 今小路西遺跡AD	國平健三「相模国の奈良・平安時代の集落構造（下）」C 西山太郎「古地斜面に立地する住居跡群の意味と三つのパターン」D 能登健「集落変遷からみた農地拡大のプロセス」D	森田稔「猿投窯灰釉陶器編年再考」F 鈴木徳雄「いわゆる北武蔵系土師器杯の動態」F 宇野隆夫「後半期の須恵器」F 西山克己「東国出土の暗文を有する土器（上）」F
南鍛冶山遺跡	石上英一ほか「宮久保木簡の意味するもの」C 國平健三「宮久保遺跡」C 國平健三「宮久保木簡の発見」C 鈴木靖民「宮久保木簡と相模古代史」C	
	橋口定志「平安期における小規模遺跡出現の意義」C	谷井彪ほか「赤沼地区第14支群の発掘」F 鶴間正昭「古代末期土師器杯・小型甕にみられる台状底部の出現とその背景」EF 今井宏「埼玉における古代窯業の発達（7）」F 明石新「S.D.4.5出土遺物について」『豊田本郷』E 小島弘義「土師質土器の実態とその年代」『四之宮高林寺Ⅱ』E 山口辰一「武蔵国府と奈良時代の土器様相」EF 服部敬史「関東地方にける九・十世紀の須恵器生産」F
	坂井秀弥「頸城平野古代中世開発史の一考察」D 大塚真弘「古代相模国における堅穴住居の変遷について1」C 市原壽文「考古学的立地論」D	横山浩一「型式論」E 神奈川県立埋蔵文化財センター「古代の交易」F 長谷川厚「古代東国における土器生産」E 眞野一郎「日本の美術12 No.235陶磁（原始・古代）」F 宇野隆夫「古代的食器の変化と特質」EF 西山克己「東国出土の暗文を有する土器（下）」EF
シンボ8	甲元真之「農耕集落」D	神奈川考古同人会「古代末期～中世における在地系土器の諸問題」EF 寺内博之ほか「下総・上総国における古代末期の土器様相」F 國平健三ほか「南武蔵南部・相模国における古代末期の土器様相」E 福田健司「南武蔵における平安時代後期の土器群」EF 酒井清治「北武蔵における7・8世紀の須恵器の系譜について」F
宮添遺跡B	鶴間正昭「古代末期の丘陵地域開発について」D	

官衙（国府・郡衙・駅家等）A	寺院 B	年代	月
国立歴史民俗博物館『古代国府の研究』		1986	3
横浜市港北ニュータウン埋蔵文化財調査団『古代のよこはま』		(昭61)	3
関口功一「長田郡と足柄郡」			3
木下良「国府と国分寺の関係について」			4
			4
			4
			4
			9
			10
			12
			12
松村鉄心『相模と武蔵の国府』	清水信行「神奈川県からさわ古窯址群出土の瓦をめぐる若干の問題」		
		1987	1
		(昭62)	1
			2
	望月一樹「南武蔵における古代寺院の造営—川崎・影向寺を事例として」		3
			3
			3
			3
			3
			3
			3
			4
			4
	亀ヶ谷利男『影向寺史』		6
			7
			9
松尾光「鎌倉出土の木簡と古代の櫛」			12
			12
			12
		1988	1
		(昭63)	1
			2
松尾光「宮久保木簡をめぐる2・3の問題」	竹石健二ほか「影向寺史」		3
			3
			4
	國平健三ほか「奈良時代寺院成立の一端について（I）」		4
森田悌「駅路の改訂」			5
木下良『国府』			6
			9
			10
			11
			12
		1989	1
		(平1)	2
富永富士雄「居村遺跡と出土木簡」			3
中山豊「小田原市千代庵寺出土の軒瓦」	中山豊「小田原市千代庵寺出土の軒瓦」		3
国立歴史民俗博物館『古代国府の研究（続）』	影向寺『影向寺薬師堂保存修理報告書』		3
			3
			3
			3
			3
			3
			3
			3
岡本勇ほか「横浜の、ずっと大昔」			4
高島英之「付札状木製品について」			5
富永富士雄「茅ヶ崎居村（B）低湿地遺跡の調査」			5
荒井秀規「高座郡内の郷名と官衙遺跡」			5
鈴木靖民「神奈川県内出土木簡について」			5
野尻瑠「古代における放生の意義」			5
坂本太郎『古代の駅と道』			5
			6
			8
太平聡「居村「放生木簡」と古代の放生」	清水信行ほか『唐沢・河南沢』		10
富永富士雄「居村B遺跡」			11
太平聡「相模国「国分尼寺」遺跡の破壊」	大平聡「相模国「国分尼寺」遺跡の破壊」		12
			12
今小路西遺跡発掘調査団『今小路西遺跡発掘調査報告書』		1990	1
		(平2)	2
木下良「上野・下野両国と武蔵国における古代東山道駅伝路の再検討」	滝澤亮ほか『相模国分寺関連遺跡』1・2		3
國平健三「初期相模国府の所在地について（上）」	滝澤亮ほか『相模国分寺関連遺跡詳細分布調査報告書1』		3
坂詰秀一「歴史考古学史上の川崎」	滝澤亮ほか『海老名市国分尼寺の調査』		3

神奈川県における奈良・平安時代の考古学的研究

特記事項	集落址（構造C・立地D）	土器（在地E・搬入F）
高林寺遺跡A	横浜市港北ニュータウン埋蔵文化財調査団『古代のよこはま』C	今井宏「埼玉における古代窯業の発達（8）」F 斎藤孝正「灰軸陶器の研究Ⅰ」F 石戸啓夫「東国における暗文を有する土師器について」EF
	萩原三雄「八ヶ岳南麓における平安集落の展開」D 伊丹徹「奈良・平安時代相模国の集落遺跡における 大型住居址と掘立柱建物」C 中田英「古代東国の一集落における一軒の住居址の性格について」C	山下孝司「奈良時代における甲斐の土器編年」F 國平健三「相模型杯の成立過程をめぐる土器様相」E 河野喜映「8世紀土器の実年代」E 林部均「東日本出土の飛鳥・奈良時代の畿内産土師器」F
シンボ9	大塚真弘「古代相模国における堅穴住居の変遷について2」C 能登健「里棲み集落の研究」D	水谷寿克ほか「篠窯跡群について」F 百瀬正恒「平安時代の緑軸陶器」F
シンボ10		斎藤孝正「施釉陶器年代論争」F 房総歴史考古学研究『房総における歴史時代土器の研究』F
蓮乗院北遺跡A		竹花宏之「多摩ニュータウン遺跡No.513遺跡」F 橋口尚武「伊豆諸島から見た律令体制の地域的展開」F 酒井清治「武蔵国における須恵器年代の再検討」F 大谷徹「熊ヶ谷東遺跡須恵器窯跡について」F 小林信一「クロコ手法土師器の出現」F 斎藤孝正「猿投窯Ⅳ期における須恵器生産の様相」F 後藤建一「西笠子第64号窯跡発掘調査報告書」F 井上晃夫「環形須恵器の編年試案」F 福田健司「土器編年と灰軸陶器」F
	大上周三「秦野市草山遺跡における古代集落の展開（予察）」C 岡本孝之「神奈川県古代開発史（予察）」D	服部敬史「東国における奈良時代前半の須恵器生産とその意義」F 林部均「東日本出土の飛鳥・奈良時代の畿内産土師器」F
シンボ11	土井義夫ほか「平安時代の居住形態」C 長谷川厚「遺跡の分布からみた古代の藤沢」D	前川要「平安時代における東海系緑軸陶器の使用形態について」F 佐野五十三「浅間林遺跡・永原追分遺跡の土器検討」F 長谷川厚ほか「三浦半島の古代遺跡における 小矢部窯址産土器の同定(1)」E 斎藤孝正「猿投窯東山地区における灰軸陶器の様相」F 服部敬史「東京の奈良・平安時代の土器研究と課題」F 坂井秀弥「律令期の須恵器系譜」EF
	井上尚明「7世紀における集落の再編成とその背景」D 渋谷芳浩「東国平安時代集落遺跡の考古学的検討」C 宮崎伸一「律令体制下における多摩ニュータウン地域内の集落形成過程」D 大上周三「秦野地域における古代集落の様相」C	北川恵一「駿東型の遷」の初現と終末について」F 大塚初重「土師器・須恵器の編年とその時代」E 國平健三ほか「奈良時代寺院成立の一端について(1)」E 服部実喜「関東地方における平安時代後半期の土器様相」E
神明久保遺跡A シンボ12	川崎市市民ミュージアム『川崎の考古』C 大塚真弘「古代相模国における堅穴住居の変遷について3」C	渡辺博人「美濃須恵窯の須恵器生産」F 勅使河原彰「日本考古学史」E 日永久男「近江産緑軸陶器の生産体制について」F 渡辺一ほか「鳩山窯跡群Ⅰ」F 埼玉県立歴史資料館『埼玉の古代窯業調査報告書』F
国分尼寺B		
池子遺跡群D	宮瀧交二「古代東国村落史研究の一視点」C 能登健「農耕集落論研究の現段階」D	
天神前遺跡A		飯塚武司「律令制成立期の土器様式の地域性をめぐって」E 國平健三「在地産土師器との共存でみた前内出窯期の比較」E 河野喜映「須恵器の実年代について」E 渡辺一「小谷B窯跡Ⅱ期と前内出窯跡の年代」F 山本恵一「静岡県東部の古墳時代後期の土師器について」F 埼玉考古学会「奈良時代前半の須恵器編年とその背景 記録集」F 静岡県教育委員会「静岡県の窯業遺跡」F 後藤健一「湖西古窯跡群の須恵器と窯構造」F 斎藤孝正「灰軸陶器の研究Ⅱ」F
稲荷前A遺跡A		雪田隆子ほか「多摩ニュータウンNo.446遺跡」F 雪田隆子ほか「多摩ニュータウン地区における 古代の須恵器生産について」F 坂本美夫「甲斐型杯（1）」F 山下孝司「奈良時代における甲斐国の土器推移と史的背景」F 前川要「平安時代における緑軸陶器の編年の研究」F 大塚道則「相模型杯の成立過程」E 若林勝司「土師器の口縁変化について」E 前川要「平安時代における施釉陶磁器の様式論的研究（上）」F 前川要「平安時代における施釉陶磁器の様式論的研究（下）」F
	坂井秀弥「越後の集落遺跡からみた古代の村落」D 尾崎泰弘「奈良時代村落研究史抄」C 大塚真弘「古代相模国における堅穴住居の変遷について4」C 岡本孝之「弥生・古墳時代の小出川流域史」D	坂本美夫「甲斐地域の奈良時代土器」F 保坂康夫「古代の甲斐型甕をめぐって」F 三重県埋蔵文化財センター・斎宮歴史博物館「緑軸陶器の流れ」F 瀬川裕市郎ほか「煮堅魚と埴形土器 覚え書」F
シンボ13	坂口一「群馬・赤城山麓の遺跡群」D	長谷川厚「住居址出土土器の様相の整理」『宮久保遺跡Ⅲ』E
シンボ14	大塚道則「中田以前の土師器研究」E	若林勝司「V 十七ノ域遺跡第4地区 3 成果と課題」E

官衙（国府・郡衙・駅家等） A	寺 院 B	年代	月
國平健三「木簡と井戸との関連性について」		1990	3
平川南「墨書土器について」		(平 2)	3
平川南「宮久保遺跡出土の木簡について」			3
神奈川県教育委員会『神奈川の遺跡』	神奈川県教育委員会『神奈川の遺跡』		3
阿部武彦「大住国府の変遷」			3
	河野一也「奈良時代寺院成立の一端について（Ⅱ）」		4
			5
			5
			7
			8
			8
	小竹実佳子「七堂伽藍出土の長頸瓶について」		9
	海老名市図書館『国分寺関係資料目録』		9
鈴木靖民「神奈川県出土の木簡」			10
荒井秀規「神奈川県古代史研究文献リスト」			10
太平聡「古代の地方行政制度」			10
太平聡「宮久保木簡と御成木簡」			10
鬼頭清明「今小路西遺跡の木簡について」			10
松尾光「御成木簡の解釈」			10
山中敏史「今小路西遺跡と役所」			10
水野順敏「都筑郡衙跡」			11
			12
	須田誠「相模国分尼寺の発掘調査概要」		
國平健三「初期相模国府の所在地について（下）」	滝澤亮ほか「相模国分尼寺跡の第9次調査の概要」	1991	2
荒井秀規「南鍛冶山遺跡の周辺官衙遺跡と郡郷の問題」		(平 3)	3
井上尚明「集落遺跡としての南鍛冶山遺跡」			3
加藤信夫「南鍛冶山遺跡と下ノ根遺跡の概要について」			3
河野喜映「土器からみた南鍛冶山遺跡の年代」			3
関和彦「南鍛冶山遺跡の史的性格」			3
鳥養直樹「南鍛冶山遺跡シンポジウム雑感」			3
丸山理「南鍛冶山遺跡シンポジウム所感」			3
山口英男「墨書土器と官衙遺跡」			3
			3
松尾光「茅ヶ崎出土の木簡と古代の放生」			4
	河野一也ほか「奈良時代寺院成立の一端について（Ⅲ）」		5
			5
			5
			5
森田佛「東国駅道の再検討」			6
望月一樹「神奈川の古代木簡」			6
田尾誠敏「古代の余綾1」			6
	村田文夫「影向寺の創建と史的展開に関する素描」		7
田尾誠敏「古代の余綾2」			9
	森田佛「在地における仏教信仰の展開」		9
鈴木靖民「下曽我遺跡と出土木簡」	大岡実「相模国分寺」		11
	神奈川県立埋蔵文化財センター「発掘された寺院」		11
荒井秀規「神奈川県古代史研究文献リスト2（正誤・補遺）」			12
田尾誠敏「古代の余綾3」			12
鳥養直樹「古代の神奈川」		1992	2
木下良「相模国の国府について」	荒井秀規「豆相の定額寺」	(平 4)	3
木下良「国府と駅家」再考」	滝澤亮ほか『相模国分寺関連遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ』		3
田尾誠敏「古代の余綾4」	北川吉明ほか「相模国分寺」		3
			3
	河合英夫「岡上廃堂址の年代観について」		4
清水信行「からさわ古窯群出土瓦・補遺」	清水信行「からさわ古窯群出土瓦・補遺」		5
			5
			6
田尾誠敏「古代の余綾5」			7
			8
			8
			8
			9
田熊清彦「東国の国府と郡家」			10
田尾誠敏「古代の余綾6」			10
			11
			11
			11
			11
			11
鳥養直樹「神奈川の古代地域史研究の潮流」			12
	滝澤亮ほか「海老名市相模国分僧寺・相模国分尼寺跡の調査」		
荒井秀規「相模国足柄評の上下分割をめぐって」	長谷川厚「相模国府と国分寺の所在について」	1993	2
太磯町郷土資料館「湘南の考古資料展」	大塚真弘「石井遺跡」	(平 5)	3
小林泰文「古代の木簡」			3
長谷川厚「相模国府と国分寺の所在について」			3
平川南「『厨』墨書土器論」			3
鈴木 靖民「相模の木簡」			4
村田文夫「古代の南武蔵」	河野一也「奈良時代寺院成立の一端についてⅣ」		5
鳥養直樹「戦後神奈川の古代史「通史・資料編」の動向」			7
			8

神奈川県における奈良・平安時代の考古学的研究

特記事項	集落址（構造C・立地D）	土器（在地E・搬入F）
	國平健三「木簡と井戸の関連性について」C	小島弘義「Ⅱ 諏訪前A遺跡第3地区 4 調査成果」E 渡辺一「鳩山窯跡群Ⅱ」F
	岡本範之「平安期における甲斐国巨摩郡の動向」D	渡辺一「南比企窯跡群の須恵器の年代」F 長谷川厚はか「三浦半島の古代遺跡における 小矢部窯址産土器の同定(2)」E 鶴間正昭「奈良時代赤色塗彩土師器の様相とその意味」E
厚木道遺跡A	田村憲美「村落と開発」D 藤井一二「開拓と村落」D	田尾誠敏「相模の羽釜」E
シンボ15 シンボ16		
シンボ17	笹生衛「千葉県の古代末期集落遺跡」D 大塚真弘「古代相模国における竪穴住居の変遷について5」C	長谷川厚「土器について」『草山遺跡Ⅲ』F 八木勝行「志太地域における律令期須恵器について」F 瀬川裕市郎「煮堅魚と埴形土器 覚え書2」F 比田井克仁「一地方窯成立の史的契機」F 森隆「近江産緑釉陶器の編年と器形的系譜に関する若干の問題」F 河野喜映「土器からみた南鍛冶山遺跡の年代」E 諸橋千鶴子「三浦半島の類製塩土器について」E
	浅野充「律令制下の地方行政について」C 井上尚明「集落遺跡としての南鍛冶山遺跡」C 加藤信夫「南鍛冶山遺跡と下ノ根遺跡の概要について」C 関和彦「南鍛冶山遺跡の史的性格」C 鳥養直樹「南鍛冶山遺跡シンボジウム雑感」C 丸山理「南鍛冶山遺跡シンボジウム所感」C 宮瀧交二「墨書土器と集落遺跡」C 坂口滋晴「遺跡出土の皇朝銭について」C 飯塚武司「多摩丘陵の遺跡群」D 鶴間正昭「古代の丘陵開発」D	直井雅尚「古代土器の編年研究に対する疑問と視点」F 渡辺一「関東・東北地方の須恵器供膳形態に見る地域性」F 長谷川厚「東国における『律令的土器様式』の成立と展開」E 平野吾郎「遠江・駿河における歴史時代土器の成立と展開」F 後藤建一「須恵器の編年 5 東海」F
御屋敷添遺跡C	大上周三「古代集落の建物群類型について」C	高橋一夫「埼玉における古代窯業の展開」F 田尾誠敏「甲斐型杯の初相」F 田尾誠敏「第18号住居址出土の甲斐型杯について」F
シンボ18		
馬場遺跡B	大塚真弘「古代相模国における竪穴住居の変遷について6」C 宇野隆夫「集落」CD	宇野隆夫「律令社会の考古学的研究」F
	國平健三「奈良平安時代の集落」C 滝澤亮「大谷向原遺跡」C	坂詰秀一「南多摩窯跡群（山野美容芸術短期大学校内）」F 林部均「律令国家と畿内産土師器」F 網貫邦男はか「群馬県における灰釉陶器の様相について（1）」F 國平健三「相模型杯」出現期の意義」E
原口遺跡C		
山王A遺跡A	大上周三「律令期集落解体と土地利用転換」CD	田尾誠敏「相模地方の甲斐型土器覚書」F 佐野五十三「駿河国における甲斐型杯・駿東型杯の成立」F 坂詰秀一「南多摩窯跡群（東京造形大学宇津貫校地内）」F
	服部みはる「神奈川県藤野町周辺の平安時代遺跡」C	
シンボ19		服部敬史「関東地方の奈良・平安時代の須恵器生産」F 渡辺一「南比企群における須恵器生産の実態」F 小林信一「関東の土器」F 高橋照彦「施釉陶器の模倣対象—磁器か金属器か」F
シンボ20	山口英男「農耕生活と馬の飼育」D 宮瀧交二「日本古代の村落と開発」D	
シンボ21		山梨県考古学協会「甲斐型土器」F 平野修「甲斐型土器の定義」F 山下孝司「甲斐型土器の編年」F 田尾誠敏「関東地方出土の甲斐型土器」F 瀬田正明「甲斐型土器の年代」F 田尾誠敏「相模における駿東型土器の分布について」F
	小林泰文「古代の木簡」C 関和彦「古代建物考」C 大上周三「奈良・平安時代集落研究の到達点とその展望」CD 笹生衛「古代の村」D	酒井清治「生産地の様相と編年」F 瀬川裕市郎「煮堅魚と埴形土器 覚え書3」F 田尾誠敏「田島井天山横穴11号墓出土の畿内産土器杯について」F 鶴間正昭「多摩ニュータウンNo.342遺跡」F
	大上周三「本郷遺跡の竪穴住居」C	

官衙（国府・郡衙・駅家等）A	寺院 B	年代	月
	須田誠「海老名市相模国分寺塔跡」	1993	9
前場幸治『古瓦考』	前場幸治『古瓦考』	(平5)	9
			10
			11
			12
宮瀧交二「相模国高座郡と天武系皇族」		1994	1
		(平6)	2
			2
高島英之「大磯町馬場台遺跡出土の銅印についての覚書」	滝澤亮ほか『相模国分寺関連遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』		3
荒井秀規「茅ヶ崎市居村「放生木願」をめぐって」			3
河野喜映ほか「神奈川県」『古代官衙の終末をめぐる諸問題』			3
田中広明「南関東地方の古代官衙の終末」			3
中村太一「古代東国の水上交通」			3
松尾昌彦「厨」銘墨書土器考」			3
	富永樹之「村落内寺院の展開 上」		5
			5
	海老名市温古館『天平の光と華』		6
平塚市博物館『掘り起こされた平塚Ⅱ』			7
	菱沼一憲「相模国分寺雑考」		8
			9
			9
			9
			10
	岡本孝之「下寺尾寺院跡の保存にむけて」		11
河野一也「相模国分寺」	河野一也「相模国分寺」		11
			12
			12
	河野一也「相模国分寺の屋瓦と造営」	1995	2
		(平7)	2
			2
明石新「相模国府域の集落」	大坪宣雄ほか『黒川地区遺跡群調査報告書Ⅶ』		3
荒井秀規「政と国府」	岡本勇ほか『中山毎吉 その人と業績』		3
荒井秀規「神奈川県古代史研究文献リスト3（新補）」			3
加藤信夫「南鍛冶山遺跡」			3
國平健三「綾瀬市宮久保遺跡」			3
明石新「相模国府域の様相」			3
齊藤忠「国庁と国分僧寺・尼寺との交通路について」			3
			3
岡本孝之「下寺尾寺院跡研究のテーマ」			4
	富永樹之「村落内寺院の展開 中」		4
明石新「発掘から見た相模国府」	川島実佳子「下寺尾寺院跡関連遺物におけるこれまでの私的作業」		5
荒井秀規「相模国府の所在をめぐる研究動向と今後の課題」			5
國平健三「相模国府の論点」			5
中村太一「東国国府の立地と交通路」			5
	岡本孝之「下寺尾寺院跡調査の成果」		6
	寺井朗雄「下寺尾寺院跡の礎石追跡調査報告」		7
	海老名市遺跡調査会「相模国分二寺に使われた石材の産地について」		8
	河野喜映「下寺尾寺院跡研究の一視点」		8
			10
平川南「国府跡および国府推定地出土墨書・刻書土器集成（稿）」	大村浩司「下寺尾七堂伽藍跡の調査」		11
丸山理「今小路西遺跡新聞記事集成」			12
中村順昭「郡家の所在と編成」			12
		1996	2
		(平8)	2
明石新「相模国「国府家」について」			3
明石新「幻の相模国府をもとめて」			3
木下良「東海道」	岡本孝之「鶴田榮太郎と七堂伽藍」		4
河野喜映「多摩丘陵南側の武蔵と相模の国界について」	赤星直忠「下寺尾寺院跡」		5
	富永樹之「村落内寺院の展開 下」		5
	富永樹之『宮ヶ瀬遺跡群Ⅶ』		5
	岡本孝之ほか「礎石の調査」		6
	横山太郎「横浜市藪根不動原遺跡」		6
			7
			7
			8
	岡本孝之「下寺尾寺院跡関連地名考」		9
岡本東三「東国の古代寺院と瓦」			10
			10
			10
			10
			10
明石新「相模国」			11
			11
			11
			11
			12
藤沢市教育委員会『神奈川の古代道』	岡本孝之「七堂伽藍は法起寺式か」	1997	1
		(平9)	1
	河野一也「相模の初期寺院」		2

神奈川県における奈良・平安時代の考古学的研究

特記事項	集落址（構造C・立地D）	土器（在地D・搬入F）
シンボ22	高杉博章『大谷真跡遺跡』C 鶴間正昭「古代末期の居住形態に関する覚書」C 大塚真弘「古代相模国における竪穴住居の変遷について7」C	瀬田正明「甲斐型環の成立年代について」F 渡辺一「武蔵とその周辺の須恵器」F 斉藤孝正「神奈川県出土の灰釉陶器・緑釉陶器」F
シンボ23	岩崎卓也「原始」C 鬼頭清明「古代」C	高橋照彦「近江産緑釉陶器をめぐる諸問題」F 城ヶ谷和広「尾張猿投窯と尾北窯」F 服部敬史「八王子市船田遺跡の平安時代集落」E 田尾誠敏「越境する相模型土器」E 諸橋千鶴子「神奈川」E
	大上周三「集落・墳墓分布にみる秦野の古代社会」C 大上周三「古代本郷遺跡の一特質」C	森原明廣「山梨県地域における古代末期の土器様相」F
シンボ24		古代の土器研究会『古代の土器研究3 施釉陶器』F 巽淳一郎「施釉陶器研究の現状と課題」F 高橋照彦「東国の施釉陶器」F 斉藤孝正「東海地方の施釉陶器生産」F
シンボ25		高橋照彦「平安時代における鉛釉陶器生産の変質」F
愛名宮地遺跡B	前田清彦「竪穴住居・竈・掘立柱建物」C	
シンボ26	仲山英樹「墨書土器と集落遺跡」C 田中慎昭「古代村落史研究の方法的課題」C 宮滝交二「丘陵地域の古代村落」D 河西健二「富山県の竪穴遺構と建物空間（その1）」C 大上周三「秦野市草山遺跡」C 大坪寛雄「海老名市本郷遺跡」C 加藤信夫「南郷治山遺跡」C 國平健三「綾瀬市宮久保遺跡」C 鈴木重信「多摩丘陵東端部の古代集落」C 滝澤亮「相模原市田名塩田原地区遺跡群」C 中田英「平塚市向原遺跡」C 明石新「相模国府城の様相」CD 渡辺一「丘陵開発論の現状と課題」D	渡辺一「武蔵国の須恵器生産の各段階」F 田尾誠敏「相模地方の甲斐型土器覚書Ⅱ」F 高橋照彦「平安期緑釉陶器の展開と終焉」F
藪根不動原遺跡B		長谷川厚「東国における律令制成立以前の土師器の特徴について」E 長谷川厚「東国における律令制成立までの土器様相とその歴史的動向」E
	服部敬史「窯業生産からみた多摩丘陵の開発」D 大塚真弘「古代相模国における竪穴住居の変遷について8」C	高橋照彦「緑釉陶器」F 山下峰司「灰釉陶器・山茶碗」F
シンボ27	茅ヶ崎市教育委員会『湘南の低地遺跡』C 坂井秀弥「律令以後の古代集落」D	服部敬史「八王子市船田遺跡の平安時代集落（5）」F 田尾誠敏「相模地方における律令制成立期の土器様相」EF
	河野喜映「多摩丘陵南側の武蔵と相模の国界について」C	費元洋「二川窯における緑釉陶器生産の展開」F
シンボ28	飯塚武司「奈良時代の多摩ニュータウン地域」C 岡本孝之ほか「茅ヶ崎市における奈良平安時代の遺跡の概観」C 坂井秀弥「遺跡が語る開発と村の歴史」C	
	帝京大学山梨文化財研究所『特集「古代の土地開発」』D 高橋学「古代の地形環境と土地開発・土地利用」D 北野博司「初期荘園と土地開発」D 原明芳「信濃における奈良・平安時代の集落展開」D 猪股喜彦「金川扇状地の土地開発」D 坂井秀弥「遺跡が語る開発と村の歴史」D 鈴木徳雄「古代北武蔵の開発と集落」D	長谷川厚「古代前半期における関東地方の煮炊具の様相」E 城ヶ谷和広「律令体制の形成と須恵器生産～」F
	鶴間正昭「多摩丘陵の古代開発」D	中三川昇「三浦半島東岸地域における律令制成立期前後の土器様相について」E
千年伊勢山台北遺跡A	宮沢公雄「古代における山峡地域開発の様相」D	水谷寿克ほか「篠簾跡群について」F
シンボ29	河合英夫ほか「神奈川県の状況」C	
シンボ30	木下良ほか『神奈川の古代道』C	

官衙（国府・郡衙・駅家等）A	寺院 B	年代	月
國平健三「相模国府研究の現状」	鈴木助清「七堂伽藍関係伝説集成」	1997	3
藤沢市教育委員会『藤沢・神奈川の古代文字』		(平9)	3
			3
			3
			3
			3
			3
菊川英政「古代鎌倉の様相」			4
杉山幾一「相模の国府」			4
			5
			5
			5
	岡本孝之「千代廃寺について」1		6
			6
			6
	岡本孝之「千代廃寺について」2		7
木下正史「国衙・郡衙・郷衛遺跡の配置計画」	岡本孝之「千代廃寺について」3		8
中島広顕「関東官衙遺跡の配置計画」	岡本孝之「千代寺院跡関係文献目録」		8
	清水信行「神奈川県の古代寺院」		8
河合英夫「川崎市橋本郡衙関連遺跡の調査」	須田誠「史跡相模国分寺跡僧坊跡」		9
			10
	池田正一郎「鎌倉期における相模国分寺」		11
	海老名市教育委員会「史跡相模国分寺跡出土の水煙について」		11
	茅ヶ崎市教育委員会『下寺尾寺院跡の研究』		11
			12
			12
明石新「大住郡域の集落の様相（上）」		1998	2
岡本孝之「茅ヶ崎古代東海道考」		(平10)	3
			3
永井肇「古代交通と相模国府」			3
			3
			3
			3
荒井秀規「神奈川県古代史素描」			4
河野一也「相模国分寺」	河野一也「相模国分寺」		5
	関東古瓦研究会『聖武天皇と国分寺』		5
	岡本孝之「千代廃寺跡の研究史的復元」		5
明石新「相模国府の所在について」	河合英夫「国分寺と郡寺」		7
明石新「文字の世界」			7
荒井健治「武蔵から見た相模国府」			7
荒井秀規「相模国府研究史」			7
大上周三「郡衙と郷」			7
河合英夫「国分寺と郡寺」			7
田尾誠敏「土器から見た相模国府」			7
山中敏史「中央から見た相模国府」			7
平塚市博物館『相模国府とその世界』			8
木下良『道と駅』			8
かながわ考古学財団『公開セミナー 古代の大型建物跡』			9
滝澤亮「相模国高座郡衙の所在について」	飯田孝「国分寺薬師堂跡およびその付近の遺跡旧観と出土遺物」		10
	岡本孝之「海老名の遺跡と岡本先生の考古学」		10
			11
			12
			12
		1999	2
		(平11)	2
	岡本孝之「千代寺院跡の再検討」		3
	池田敏宏「関東地方瓦塔編年と他地域瓦塔編年の比較検討」		3
	境雅仁「愛名宮地遺跡」		3
	岡本孝之「千代寺院跡の再検討」		3

【関連する主なシンポジウム】

シンポ1	1978.4	神奈川県内における古墳時代後期から平安時代土器編年試案（第1版） 神奈川考古同人会土師器研究グループ
シンポ2	1980.11	シンポジウム盤状杯－奈良時代土器の様相－ 武相古代研究会・東洋大学未来考古学研究会
シンポ3	1981.11	平安時代の土器・陶器－各地域の諸様相と今後の課題－ 愛知県陶磁資料館
シンポ4	1982.7	関東地方における9世紀の須恵器と瓦 立正大学
シンポ5	1983.1	奈良・平安時代土器の諸問題－相模国と周辺地域の様相－(第II版) 神奈川考古同人会
シンポ6	1983.10	房総における奈良・平安時代の土器 史館同人・市立市川考古博物館
シンポ7	1984.4	宮久保木簡の語る古代の相模 神奈川地域史研究会
シンポ8	1986.2	古代末期～中世における在地系土器の諸問題 神奈川考古同人会
シンポ9	15.86.12	灰釉陶器の時代とその流通 静岡県考古学会
シンポ10	1987.12	奈良時代前半の須恵器編年とその背景－前内出窯跡とその後－ 埼玉考古学会
シンポ11	1987.1	房総における歴史時代土器の研究 房総歴史考古学研究会
シンポ12	1988.10	居村B低湿地遺跡が語る古代の相模 神奈川地域史研究会
シンポ13	1990.2	緑釉陶器の生産と消費 斎宮歴史博物館
シンポ14	1990.3	「御成遺跡にみる古代の鎌倉」御成小学校移転改築を考える会・神奈川地域史研究会
シンポ15	1990.10	「南鍛冶山遺跡を考えるシンポジウム」 藤沢市文書館・神奈川地域史研究会
シンポ16	1990.10	「木簡学会公開研究会フォーラム 古代東国と木簡」 川崎市民ミュージアム
シンポ17	1990.11	関東官衙遺跡の検討
シンポ18	1991.11	国分寺史蹟指定70周年、海老名市制20周年を考える市民シンポジウム「相模古文化：歴史と海老名」海老名市役所

神奈川県における奈良・平安時代の考古学的研究

特記事項	集落址（構造C・立地D）	土器（在地E・搬入F）
シンボ31		古代生産史研究会「東国の須恵器」F 鶴間正昭ほか「武蔵国の窯跡出土の須恵器」F 鶴間正昭「律令制成立期の須恵器の系譜」F 江口桂「律令制変質期の須恵器の系譜」F 田尾誠敏「相模湾沿岸部出土の甲斐型土器素焼」F 田尾誠敏「相模地方出土の外周縦暗文を有する土師器坏の系譜」（上）F 高橋照彦「中世食文化の様相」F 高橋照彦「出土文物からみた平安時代の儀礼の場とその変化」F
	菊川英政「古代鎌倉の様相」C	
		渡辺一「関東地方の土器生産」F 城ヶ谷和広「東海地方における古代の土器生産と流通（予察）」F 赤井博之「新治窯跡群東城寺桑木窯跡採集須恵器の新資料」F 古代研究部会「三浦半島における歴史時代土器の研究（1）」EF 坂詰秀一ほか「南多摩窯跡群（八王子みなみ野シティ内）1」F 三河考古刊行会「須恵器から灰軸陶器へ」F
シンボ32		
	鈴木徳雄「古代北武蔵の土地利用と集落」D	
		赤井博之「新治窯跡群の基礎的研究」F 國下多美樹「長岡京前後の土器様式」F 山中章「桓武朝の新流通構造」F
		贅元洋「古代遠江の食膳具」F 渡辺博人「美濃須恵窯における奈良・平安時代の様相」F
	明石新「大住郡域の集落の様相（上）」C 西川修一ほか「御屋敷添遺跡 他」（第二分冊）C 望月芳「南鍛冶山遺跡発掘調査報告書」第5巻C 上本進二ほか「藤沢低地の地形発達と遺跡形成」D	城ヶ谷和広「猿投窯における須恵器生産の展開」F 田尾誠敏「相模地方出土の外周縦暗文を有する土師器坏の系譜（下）」F 尾野善裕「灰軸陶器生産技術の系譜」F 齊藤孝正「猿投黒世地区における緑軸陶器生産の展開」F 桜岡正信ほか「金属器と金属器指向」F 田尾誠敏「南西田遺跡出土の異系統土師器坏について」F
シンボ33		依田亮一「神奈川県出土緑軸陶器の諸様相」EF 赤井博之「古代常陸新治窯跡群の基礎的研究」F
シンボ34		田尾誠敏「土器から見た相模国府」F
シンボ35		五島美術館・愛知県陶磁資料館「日本の三彩・緑釉」F
シンボ36	かながわ考古学財団「公開セミナー 古代の大型建物跡」C 滝澤亮「相模国高座郡衛の所在について」C 海老名市史原始古代班「えびなの歴史10」C	田尾誠敏ほか「5号住居址出土の土器について」E 佐野五十三「須恵器花瓶の成立」F 贅元洋「湖西窯編年の再検討」F 伊丹徹「交流の文化史」F 中三川昇「地域研究の成果 古代土器様相の特色とその背景」EF 山下幸司ほか「奈良・平安時代の編年」F 田尾誠敏「土器・陶器の変遷と王子ノ台集落」E 田尾誠敏「土器からみた「相模」の成立課程」E 田尾誠敏「土器からみた古代の茅ヶ崎」F
	上本進二ほか「茅ヶ崎低地の地形発達と遺跡形成」D	

シンボ19	1992.8	大戸窯検討のための「会津シンポジウム」東日本における古代・中世窯業の諸問題 大戸古窯跡群検討会・会津若松市教育委員会
シンボ20	1992.9	古代の土器研究会第1回シンポジウムー律令的土器様式の西・東1 土師器ー 古代の土器研究会
シンボ21	1992.11	甲斐型土器ーその編年と年代ー 山梨県考古学協会
シンボ22	1993.10	古代の土器研究会第2回シンポジウムー律令的土器様式の西・東2 須恵器ー 古代の土器研究会
シンボ23	1994.3	古代官衙の終末をめぐる諸問題 東日本埋蔵文化財研究会
シンボ24	1994.9	古代の土器研究会第3回シンポジウムー律令的土器様式の西・東3 施釉陶器ー 古代の土器研究会
シンボ25	1994.10	古代東国の国府と景観
シンボ26	1995.3	かながわの古代集落 神奈川県考古学会
シンボ27	1996.3	湘南低地遺跡について 茅ヶ崎市教育委員会
シンボ28	1996.9	古代の土器研究会第4回シンポジウムー律令的土器様式の西・東4 煮炊具ー 古代の土器研究会
シンボ29	1997.1	遺物からみた律令国家と蝦夷 東日本埋蔵文化財研究会
シンボ30	1997.2	関東の初期寺院 関東古瓦研究会
シンボ31	1997.3	東国の須恵器ー関東地方における歴史時代須恵器の系譜ー 古代生産史研究会
シンボ32	1997.8	古代寺院の出現とその背景 埋蔵文化財研究会
シンボ33	1998.3	武蔵国シンポジウム 国府・国分寺・武蔵路 武蔵国シンポジウム実行委員会
シンボ34	1998.7	東国の国府inWAYO 学校法人和洋学園・和洋女子大学
シンボ35	1998.8	相模国府とその世界 平塚市博物館
シンボ36	1998.9	公開セミナー 古代の大型建物跡ー役所か邸宅かー (財)かながわ考古学財団